

ものづくりの進化と経営理念の深化を通じて、 より社会に必要とされる企業へ 株式会社 エナテック



株式会社 エナテック

代表取締役社長：榎並 秀治氏
 本 社：大阪府和泉市テクノステージ
 3丁目10番10号
 創 業：1919年（大正8年）
 従業員数：120名
 事業内容：エンジン・農業機械部品・
 自動車関連部品・
 変速機ケース・機械加工部門・
 電子機器関連製品・
 医療機器関連製品
 URL：<https://www.enatech.co.jp/>



本社外観

株エナテックは、創業100年を超える老舗の精密部品加工企業です。『社会に貢献し 社員の生活向上を図り 生き甲斐ある 会社造りをめざす』を経営理念に掲げ、産業用エンジンの排気関連部品の製造を中心に、電子回路基板の関連装置、医療用機器といった多様な分野へ活躍の場を広げています。今回は、代表取締役社長の榎並秀治氏に会社の歴史や事業展開の状況、経営哲学など、さまざまなお話を伺いました。

—ルーツは戦国時代の鉄砲鍛冶 「ものづくり」にこだわり続ける 老舗企業

当社のルーツは、1500年代、戦国時代の鉄砲鍛冶「榎並屋勘左衛門」にあります。鉄砲は種子島へ伝来し、堺が有数の製造拠点でした。当時の堺は日本のなかでも大都市の一つで、貿易港としても栄え、鉄や火薬など、原料の調達が容易だったようです。そうして江戸末期に武器の規制がされるまでの間に大繁栄したと聞いています。

榎並屋勘左衛門は優秀な鉄砲鍛冶で、徳川家康に可愛がられていたという話も言い伝えられています。



火縄銃の実物（会社応接室に展示）

火縄銃の製造で培った金属加工のノウハウをベースとして、私の祖父が、今から100年以上前の1919（大正8）年に榎並鉄工所を立ちあげました。

機関銃や航空機部品を造っていましたが、クボタさんと取り引きがあり、戦後は耕運機やエンジンの部品を手掛けました。クボタさんとは現在もお仕事をさせてもらっていますので、70年以上のお付き合いとなります。

—金属加工を基軸として、 3つの事業を展開

当社は創業から続く、現在も主力事業である機械加工の他に、電子機器関連、医療機器関連でも事業を展開しています。

①機械加工関連事業

創業から続く主力事業です。産業用エンジンの排気関連の部品を主に製造しています。部品の精度・品質がエンジンの性能を左右するため、長年培ってきた金属精密加工の技術が大きな強みとなっています。



エンジン排気関連の部品

②電子機器関連事業

2つ目は、電子機器関連事業です。ガラスエポキシのプリント基板の端面から発生したゴミや異物が電子部品に干渉し、製品不良を引き起こす問題があります。これまでは、そうしたト

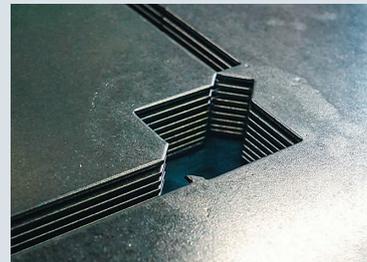
新聞にも掲載 新開発の板金部品のジョイント取り外し装置



マイクロジョイント外し装置

マイクロジョイントは板金加工時に発生する切り残しの部分です。従来は半自動で、機械で切除し発生したバリを作業者がハンドグラインダーで取るといったように、作業の負担が非常に大きいところでした。

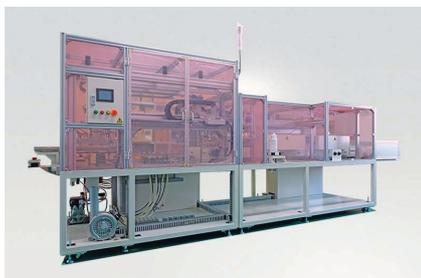
切り残し付きで板金加工した部品を鋼板シートから傷をつけずに取り出せる自動化システム「マイクロジョイント外し装置」を開発、今年6月に初号機を納入しました。作業の安定性や生産性、人手不足への対応、品質管理に寄与するとして住宅設備や事務機器、電機関連の製造ラインへの提案を始めています。



マイクロジョイントの写真

ラブルに対して有効な手段がとられていませんでした。そこで当社がプリント基板の端面を自動的に樹脂で固め、コーティングする装置「電子基板端面コーティングシステム」を世界で初めて開発しました。

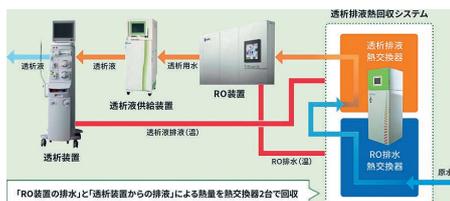
エッチング工程を完全自動化することができ、作業員の効率的な配置と大幅なコストダウンに大きく貢献しています。



電子基板端面コーティングシステム

③医療機器関連分野

3つ目の事業は医療機器関連です。ニプロさんとの共同開発により、「透析排液回収システム」を開発しました。



透析排液回収システム

人工透析時にRO装置（逆浸透膜を使って不純物を取り除く濾過装置）の排水と人工透析装置から発生する排液の熱量を2台の熱交換器で回収し、エネルギーとして再利用することで透析治療時に必要となる消費エネルギーの軽減に貢献するというものです。ここでは金属加工の試験機や電気基板のX線装置の開発などの実績、ノウハウが活かされています。

— 新たな事業に挑戦する

その原動力は・・・

当社の主力事業は創業から現在まで機械加工の事業です。ただし、これからも新しい事業には挑戦していきたいと思っています。挑戦には当然リスクも伴います。私も過去に幾度も失敗していますから、良くない結果が頭をよぎることもあります。しかし、それを上回る好奇心、チャレンジ精神、そして何より困っている人の力になりたいという想いがあります。

ですから、新たな事業に挑戦する原動力は？ともし聞かれたら、私は「気持ち」だと答えます。この仕事をやりたい、成し遂げたいという気持ちがあれば、その熱意が伝わり、人を動かすことができますし、お金を集めることもできます。

— 100年以上続く秘訣

社長の経営哲学

会社を続けていくためには利益を出すことが第一条件です。そして、出た利益の3分の1を内部留保に、3分の1を社員に還元、3分の1を未来への投資とすることです。当社でも新しい事業は未来への投資の資金で行っています。利益の一部ですから、失敗しても会社を潰してしまうことはありません。もうひとつ、ダメかなと思った時は撤退する判断も大事です。これは経営者にとって非常に重要な要素だと思います。

当社の経営理念は「社会に貢献し社員の生活向上を図り生き甲斐のある会社造りをめざす」としています。会社が未来永劫続いていくためには、一人でも多くの社員が、この経営理念をしっかりと理解することが重要だと思います。若い世代の人もしっかりとした考えを持ち、頑張っています。経営理念を忘れずに、新しい力でこれからの当社を、時代を引っ張って行ってほしいです。私は漬物石のような存在で良いかなと思います。

— 貴重なお話をいただき、ありがとうございました。